



巻頭言／福祉“人材”確保の観点から、就労形態の工夫が肝要と考える。保育では女性の就業率上昇に的確に対応し、介護でも多様性を重視した職場環境のさらなる整備を促したい。 — 2

摂津市と共同で“出張相談会”開く せつつ桜苑 — 3

地域貢献活動に感謝状 — 3

日頃の消火訓練が役立ちました！ 延焼防いだ岩戸ホームの井上係長 “不発弾処理”福祉施設ご利用者の避難移送支援 吹田竜ヶ池ホーム

送迎時の子どもを守る「バスの集い」 千里丘愛育園 — 3

戻ってきた夏！ お祭り・湖水浴・合宿—コロナへの油断は禁物ですが… — 4~5

いつまでもお元気で 敬老式典 — 5

先輩からのメッセージ — 6~7

宮地瑠菜さん(認定こども園きりん愛育園)/神崎遥さん(吹田竜ヶ池ホーム)

「ヨガを楽しもう会」地域の親子対象に 認定こども園—津屋愛育園 — 6

介護スタッフら福祉人材育成にひと役 せつつ桜苑・寿みのりの郷 — 7

トピックス — 8

“顔つけ”“バタ足”できたよーっ！ 幼児クラスのプール遊び

東生野愛育園の幼児クラスでは今年の夏、プール遊びを楽しみました。コロナ対策のため、1クラスをグループ分けし、5人ずつ水に入り、スタッフ間の連携で8月末まで実施。個々に目標を立てた子どもたちは“顔つけ”“ビート板を使ってバタ足”などに挑戦しました。「先生、見てー！できるよ！」と意欲も旺盛、プール遊びを通して心身ともに大きく成長した子どもの姿が見られました。同園の屋外プールは夏しか利用できないため、貴重な経験となりました。



念願の打ち上げ花火に歓声 3年ぶりに地元と共催

岩戸ホーム(福知山市)と鴨野町自治会共催の夏祭りが3年ぶりに開催、地域の夏の風物詩として楽しみにされていた『鴨野町花火大会』も同日実施されました(7月30日)。当日はコロナ対策に細心の注意を払い、雰囲気づくりの観覧場所にも配慮しました。コロナ前よりも準備に苦労しましたが、花火が闇空に打ち上げられると歓声を上げて興奮されるご入居者、スマートフォン越しに花火を見つめるスタッフらの光景も見られ、いつもの夏に戻ったような安堵と感動に包まれました。



経験生かし小玉スイカの収穫 シャーベットにしてご利用者に

吹田竜ヶ池デイサービスセンター(吹田竜ヶ池ホーム併設の認知症対応型通所介護)ではご利用者と一緒に、敷地内の農園スペース「竜ヶ池農園」で栽培した小玉スイカの収穫を行いました(8月23日と9月2日)。農作業やガーデニングなど若い頃に手掛けた経験を生かし、生活の中でやりがいを見つけ出してもらおうが目的。今年は10個もの小玉スイカを収穫、他の部署へも気持ちばかりのお裾分け。収穫後にはスタッフがシャーベットを作り、おやつの時間にご利用者に召し上がってもらい「おいしい!」と大好評。自分たちが収穫した小玉スイカがシャーベットになっていることへの驚きもあり満足そうでした。



残暑の厳しさ忘れるうちわ作り 風船で絵の具のスタンプ花火

ココリス(生活介護)では季節のうつろいを感じてもらえる個別の創作活動を行っていますが、うちわ作りもその一つ。

残暑が厳しかった8月中旬から下旬、うちわ作り。誰もが取り組めるよう風船で絵の具のスタンプを花火のように散りばめました。個性溢れるうちわが完成しご家族へプレゼントしました。9月上旬にはお月見をテーマに壁画制作。施設内で過ごしになるフロアに、ご利用者の一人一人の状況に配慮しながらちぎり絵や水彩画を担当してもらい、彩(いろどり)の豊かさや華やかさを添えました。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2022年11月
【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来
創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



福祉“人財”確保の観点から、就労形態の工夫が肝要と考える。保育では女性の就業率上昇に的確に対応し、介護でも多様性を重視した職場環境のさらなる整備を促したい。

理事長 高岡 國士

日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、皆様の多大なご協力とお力添えをいただき感謝とお礼を申し上げます。

アフターコロナ移行期に求められる持続可能な福祉サービス

令和4年度は、徐々にコロナショック前の生活様式に戻っていく、アフターコロナ期への移行期間に位置付けられ、平時への復帰が期待されているところであり

日本経済の短期見通しによると、物価高や感染拡大の影響が懸念される一方で、①夏休み・秋の行楽シーズンに行動制限が課されないこと②これまでのコロナ禍で積み上がった貯蓄を源泉に、対面型サービスを中心にリベンジ消費が維持されること③自動車の生産制約が解消に向かうことなどから個人消費の増加傾向は維持されると予測されています。

社会福祉事業を推進する社会福祉法人にとっても、日ごろ保育・高齢者・障がい者部門の施設をご利用いただいている関係者にとっても先行きの見通しとして大変喜ばしい限りであります。しかし、まだアフターコロナへの移行期間ということもあって、withコロナの状況下で、持続可能な福祉サービスの提供にどのように努めていくかが求められています。

年来的テーマ「女性の両立支援」は実効が上がっているとの実感も

厚生労働省が9月16日に公表した「令和4年版厚生労働白書」では、副題が「社会保障を支える人材の確保」とされ、現役世代が急減していく人口構造を踏まえ、今後の医療福祉サービスの提供の在り方や、令和の社会保障における最重要課題の一つである人材確保に関する今後の対応の方向性をテーマとしています。白書の「現状と見通し」の記述の中で、女性(25～39歳)、高齢者(60歳以上の男女)の就業率上昇が就業率を底上げし、2021年の就業率が1990年代後半の水準を維持しているとのことです。女性の両立支援(育児と仕事)は、私の長年のテーマであり、すべてに取り組みしているとは思っていませんが、その実効が上がってきていると実感する次第です。

過去約20年間で410万人の医療・福祉就業率が増加してきたものの、今後20年間で20歳から64歳までの人口が約1400万人減少する見込みとなっており、とりわけ福祉分野の就業者の確保が喫緊の課題となつていきます。

施設経営の指標として認識すべき 大阪、京都の高齢者人口動態トレンド 保育人財確保の観点から、女性の就業率の上昇に

的確に対応し、保育補助や短時間勤務の保育士など就労形態の工夫を図ることが肝要であると考えます。このことは、高齢者等介護人財確保の観点からも、多様性を重視した職場環境として、外国人労働者の積極的な受け入れや介護助手など様々な就労形態を検討する点で同様のことが言えると思います。さて、白書を読み込む中で、気がかりな点があり、2025年から2040年にかけての人口動態で75歳以上人口の減少数が全国で大阪が一番大きいという点です(京都も3番目に減少数が大きい)。逆に、65歳以上人口は増加数が多い順に、大阪が全国5位、京都が10位となるのが推計されています。このトレンドは、今後の高齢者・障がい部門の施設経営の舵取りの大きな指標の一つとして認識しておいてほしいと思います。

このように、我々社会福祉法人を取り巻く社会経済等の状況がどのように変わろうとも、法人(園施設)として丸となり、10年後も地域から、信頼りにされる社会資源として、優しい笑顔で人々に関わり、思いやりの心と言葉をもって地域住民と交流することにより、我々と関わるすべての人々を笑顔にできるよう精進してまいりますので、関係者の皆様には今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

先輩からの



神崎 遥 吹田電ヶ池ホーム 2022年度入社

優れた点・長所をご本人にお伝えし信頼関係築く チューター制度の指導のお陰で不安が自信に

自分のどんな所が

今の仕事に生かされていると感じますか?

優れているところや長所をすぐに見つけ、それをご本人に伝えることができるのだと思います。施設ではご入居者に尊厳を持って接し、お若い頃のお話や興味を示されることを詳しく調べたりします。私が凄いと思ったこと、尊敬できることをお伝えするだけでなく、さらに日々の会話を通じて、もっと親しい信頼関係が構築できると思います。

一学生みなさんにメッセージを

私自身がコロナ禍で十分な実習など行えていなかったので技術面で自信が持てず、入社後の不安の一つとなっていました。しかし、成光苑の人材育成制度(チューター制度)は、常に専属の先輩スタッフを中心に指導してくれます。適切なアドバイスのお陰もあって、技術面で不安だった移乗介助も不安から自信へと変わり、他の業務を覚えるスピードも早くなったと感じています。学生生活はあっという間です。コロナに振り回されたこともあったと思いますが、最後まで悔いのないよう楽しんでください。

介護スタッフから 福祉人材育成にひと役

大阪人間科学大の講座担当

せつつ桜苑・寿みのりの郷

高齢者部門(大阪エリ ア)では、大阪人間科学大 学からの依頼で介護福祉士を目指す学生の授業の講師を務めました。将来の福祉人材育成のため養成校への講師派遣など積極的に協力しています。

講義を務めたのはせつつ桜苑の介護スタッフ、松田有里介介護支援専門員、山内伸介介護主任、川瀬和佳介介護主任、藤本俊介主任の4名と、寿みのりの郷の射手矢真里子生活相談員。講義内容は「介護技術Ⅶ」(1科目・全15回、4月7日～8月4日)、「介護概論」(6月29日)、「高齢者福祉」(7月22日)。

「介護技術Ⅶ」では、講義に加え、「福祉用具(スライディングシート、スライディングボード、床走行式リフト)を使用した移乗、移動介助」の演習を行い、転倒やけがをした時の応急手当、災害時にDWA T(※)として活躍できる介護福祉士の役割などを指

驚き! 揚げないポテトチップス

ライフステージ 夢咲

ライフステージ 夢咲(障がい:生活介護)は生活介護スペースで「電子レンジを使った、揚げないポテトチップス作り」と題したお菓子作りを行い、16名のご利用者が参加されました。

油を使わずヘルシーをテーマに

グループの加佐デイサービスセンターで収穫したジャガイモをお裾分けしてもらったことから“油を使わずヘルシー”をテーマに、ご利用者が皮むき、スライス(写真)、味付けを担当されました。あら塩、コンソメ、カレーパウダー、柚子胡椒などをミックスするなど相談しながら味付けを決定、どの味付けも大好評でした。



ご利用者が挑戦



ココリス

驚き! ウツボカズラが昆虫食べてる

「虫を食べる植物展」で体験

ココリス(放課後等デイサービス)のご利用者6名は、咲くやこの花館(花博記念公園鶴見緑地)で開催された「虫を食べる植物展2022」に施設の送迎車両を利用して見学に行きました(7月29日)。

ウツボカズラ(食虫植物)が昆虫の捕食を見学できるコーナーで、専用の虫眼鏡でその捕食袋の中を覗き込み「虫が入ってる」と興奮しながら教え合ったり、つい触りそうになるところをガマンするご利用者もあり興味津々の様子。夏休みの自由研究のような体験で「めずらしい植物を見て、驚きや楽しさを共有したい!」と企画、楽しい夏の思い出になりました。



▲虫眼鏡で覗く子ども

「使えるBCP(事業継続計画)」を目指す 自然災害やコロナ感染症への即応・継続対応をアピール 介護専門誌のオンライン取材に応じる

せつづ桜苑(大阪府摂津市)のBCP(事業継続計画※)の取り組み(「ききょう」2020夏号に記事)について、介護福祉分野の専門誌「介護ビジョン」(9月号(日本医療企画)から取材)が、下村宗治副施設長と藤本俊介主任が7月28日オンライン取材に応じました。

同施設は安威川に合流する大正川の川沿いに立地。河川の氾濫で浸水の可能性もあるとされています。このため、水害などの自然災害対応とコロナによる感染症対応などについて1回以上の会議(通所系、訪問系など各事業所に適したBCPへの見直し作業)や研修(感染症対応模範訓練、災



▲感染症対応訓練の様子

害時の炊き出し訓練などを開催していることを強調。当面のコロナ対策では最新情報を取り入れBCPの見直しを図っています。

2023年度中にはすべての介護サービス事業所にBCP策定が義務付けられていますが、有事の際に「ほんとうに使えるBCP」を目指し常にアップデートしていきたいと考えています。

※BCP(事業継続計画)は、感染症や災害が発生した場合、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、介護サービス事業者を対象に業務継続計画の策定・研修や訓練(シミュレーション)の実施などBCPの策定が2024年4月から義務づけられます。

送迎時の子どもを守る「バスの集い」 幼児クラス対象

千里丘愛育園では9月21日、幼児クラスを対象に「バスの集い」を行いました。昨今、他園で発生した送迎通園バス車内での園児置き去り事故を重く受け止め、保育者として身を引く安全管理の徹底を図る一方、子どもたちにも緊急時のバスの仕組みなどを知ってもらうのが目的です。



▲約束事を説明する保育スタッフ

杉本みゆき園長代理・安全運転管理者(※)が率先して起家・実施。同園では園児送迎用のマイクロバス(乗車定員28人)を所有、専属の運転手と保

摂津市と共同で“出張相談会”開く 地域貢献活動の一環

せつづ桜苑は8月19日、大阪府営摂津南別府住宅(南別府団地)内で、摂津市高齢介護課と共同で「出張相談会」を開き、下村宗治副施設長が同住宅の居住者対象に相談にあたりました。コロナ対応に万全を期し、出張型地域貢献活動の一環です。



▲無料送迎車両で市役所へ

また、摂津市が担当する福祉サービス対象に該当されると思われる方は、待機していた無料送迎車両を利用される必要手続きなども行うことができました。

反省会では「参加してよかった」の声の一方で、「知っていれば相談に行きたかった」などの課題もあり、自治会からは「もう一度やってほしい」「各世帯にチラシを配り周知したい」といった要望などが寄せられました。このため、次回は11月25日、同場所で開催予定(写真は予告チラシ)です。

無料送迎巡回バスは？ 緊急通報装置は？



▲ブザーを鳴らす園児ら

育スタッフが添乗してほぼ毎日稼働。保育スタッフから、もしバスに取り残された時は「窓を叩き助けを呼ぶ」「ブザーを鳴らす」など約束事を説明。また、実際に駐車中のマイクロバスに乗り、クラスごとにクラクションや防犯ブザーの場所を確認、一人ずつブザーを鳴らすことができました。

(※)安全運転管理者 定員11人以上の自動車1台以上、その他の自動車5台以上所有の事業所は法令で選任を義務付け。安全運転確保のための運行計画の作成、運転者に対する安全運転指導などの業務を行う。

福祉施設ご利用者の避難移送支援 吹田竜ヶ池ホーム

吹田竜ヶ池ホームが加盟する吹田地区特別養護老人ホーム連絡協議会などは、不発弾処理に伴う特養のご入居者を安全な場所へ移送する避難支援を行い、後藤圭二吹田市市長から感謝状を授与されました(8月31日)。

不発弾は吹田市南吹田3丁目の工事現場で発見、現場から半径300メートル以内の警戒区域内全住民・事業所が避難することになり7月24日、エリア内の「特別養護老人ホーム吹田千寿園」の入居者と施設職員計74名を車両で同市総合福祉会館へ移送(往復)する避難支援に協力。吹田竜ヶ池ホームからは喜多記子事業部長が車両の館内移動の介助など、尾園洋平係長が福祉車両の運転を担当。全員無事避難することができました。なお、不発弾は信管が確認され爆発の恐れもあったそうです。



山林への延焼防ぎ感謝状 岩戸ホームの井上係長

岩戸ホームの井上誠也係長(写真)が、5月29日に京都府船井郡丹波町上大久保で発生した火災の初期消火活動を行い関係消防署から感謝状を授与(7月13日)されました。

井上係長は息子さんの少年野球の試合観戦後、車で帰宅途中、視界に黒煙が…。胸騒ぎを覚え黒煙の方角へ向かうと予感的中。火災現場は資材置き場でそばの山林へ延焼しようとしている状況だったそうです。現場近くに「消火用ホース格納庫」を見つけ、ホースを消火栓に結合、同乗中の夫人と消防車が到着するまでの約40分間、「一意専心の思いで消火活動を続けました」と井上係長。「一時期、地域の消防団に入っていたこと、施設での日ごろの防災・消火訓練が役立ちました」と話されています。



日頃の消火訓練が役立ちました！



宮地 瑠菜 認定こども園きりん愛育園 2022年度入社 子どもとの「1対1の関わり」を大切に 園の雰囲気や先輩の姿に職場を決めました。積極的に見学を

—自分のどんな所が今の仕事に活かされていると感じますか？
私は子どもの想いに寄り添い、良き理解者になれるよう“1対1の関わり”を大切にしています。特に“絵本の読み聞かせ”をすることが好きで、子どもたちと一緒に笑ったり、絵本のキャラクターの動きを真似して遊んでみたり。絵本を通して信頼関係を築きながら園生活を楽しく安心して過ごせるよう取り組んでいます。

—学生のみなさんにメッセージを
現在の職場でお世話(保育実習)になり、園の雰囲気や子どもたち・保護者の方とも温かく関わっている先生方の姿を見て就職を決めました。就活で気になる園があれば積極的に見学に行き、その雰囲気や子どもたちの姿を見て、自分が働きたいと思える園を焦らずじっくり考えてほしいです。学生生活と就職活動に悔いがないよう頑張ってください。

子どもたちと先生との関係を熱心に参観 親子参観・クラス懇談会開く くらみ小規模保育園

くらみ小規模保育園で親子参観・クラス懇談会が行われ、保護者11名が参加されました。コロナの影響で園内行事などの機会が減っていたこともあり、昨年度の保護者アンケートで「子どもたちの園での様子を知りたい」「他の保護者との面識や交流ができれば」という意見や要望に応えたものです。

0歳児クラスは保護者が子どもに見えない場所から保育室で遊んでいる様子を、1歳児クラスはロフトから運動会の予行練習を、2歳児クラスは保護者が傍で見守る中、言葉遊びをして



それぞれの月齢に合わせた方法で参観されました。保護者からは「先生との関係や保育中の様子が見られるなど、子どもたちの成長を実感されているようでした。」

3年ぶりの親子遠足は「天王寺動物園シールラリー」で くらみ愛育園

くらみ愛育園は9月17日、3年ぶりに親子遠足を実施、目的地は天王寺動物園で、0~4歳児の57名とご家族らが参加されました。

コロナの影響を踏まえ、保育者と保護者間、保護者同士の間で「屋外実施」「お弁当を集団で食べない」「密になりがちな集団リクリエーションにしない」などを確認し、「天王寺動物園シールラリー」となりました。

動物園へ入場すると担任の合図でシールラリーがスタート。カバやペンギンなど4ヶ所のチェックポイントで待つ保育スタッフを親子で探しながら様々な展示動物を観覧しました。任務をコンプリートすると保育スタッフ手作りの動物メダルがプレゼントされました。保護者からは「初めての動物園、子どもと一緒に楽しかったです、来年もぜひやって」といった声が聞かれ、約1時間半の充実した親子遠足となりました。

「ヨガを楽しもう会」開いてまーす 地域の親子対象に



認定こども園一津屋愛育園は、今年度から地域の親子を対象に「ヨガを楽しもう会」を開催しています。外部講師にヨガインストラクターの池田真梨子さんを招き、第1回目(7月15日)には6組の親子がヨガ体験(写真)されました。また、第2回目(9月16日)は「抱っこ正しい方法」「抱っこ紐の正しいつけ方」など関心の深いテーマ。いずれの参加者からも「身体を伸ばせて気持ちがスッキリしました」「これからはぜひ続けて」といった感想や要望が寄せられました。このため11月25日にも開催予定でテーマは「ぽっこりお腹とおっきいお尻」、いかがですか。

《お問い合わせ》 電話 06-6340-2107 (川崎、前田、畠中)



▲スタート前に記念撮影

活気あふれるだんじり曳行 幼児受け入れでパワーアップ 地元清見原神社の夏祭本宮祭

くるみ愛育園(大阪市生野区)の2~4歳児(39名)は、地元の清見原神社の夏祭本宮祭で行われた「だんじり曳行」に参加しました(8月1日)。

同園は今年度から幼児受入開始で定員増となったことから、これまでよりも一段とパワーアップ、活気溢れるだんじり曳行。厳しい日差しが照りつける中、ねじり鉢巻き、法被に身を包んだ子どもたちは、太鼓や摺鉦(すりがね)の音に意気揚々と曳綱を握りしめ練り歩きました。気温が高かったこともあり20分程で園に戻りましたが、保育スタッフが用意した麦茶を一気に飲み干すと、「めっちゃ楽しかったなあ」と子ども同士で語り合い達成感に目を輝かせていました。



乳児、幼児クラス分けて「夏まつり会」

東生野愛育園で「夏まつり会」を開催、コロナ対策として乳児と幼児クラスに分けました(7月27日)。

5歳児クラスは、日ごろから子どもの主体性を重んじる遊びを展開しており「お化け屋敷」に決まりました。「どんなお化けがいるかな?」「お化けにどんな物(仕掛け)を作ったらいいな?」と話し合い、「座敷童(ざしきわらし)の家」などを作ることにし、お互い協力し合う姿に子どもたちの成長が感じられました。「一つ目小僧」「海坊主」など自分が仮装したいお化けの衣装作りにも力が入りました。当日、「赤ちゃんを怖がらしたらあかんよ」と年長さんらしい一面も。一番楽しんでいたのは仮装したお化けの子どもたちでした。

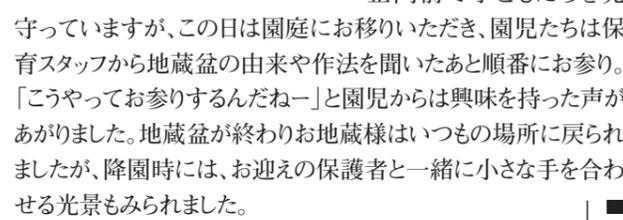


5歳児は仮装の「お化け屋敷」を楽しむ

お祭りだ! 湖水浴だ! 合宿だ! 戻ってきた“夏” コロナ禍に油断は禁物ですが...

地蔵盆に5歳児クラスがお参り

千里丘愛育園の園庭で8月25日に行われた地蔵盆に5歳児クラス(47名)が参加しました。コロナの影響で今年も同園単独開催でした。お地蔵様は日頃、園舎正門前で子どもたちを見守っていますが、この日は園庭にお移りいただき、園児たちは保育スタッフから地蔵盆の由来や作法を聞いたあと順番にお参り。「こうやってお参りするんだね」と園児からは興味を持った声があがりました。地蔵盆が終わりお地蔵様はいつもの場所に戻りましたが、降園時には、お迎えの保護者と一緒に小さな手を合わせる光景もみられました。



一回り大きく成長したかな、合宿保育宝の地図を手に園内探検

認定こども園正雀愛育園の5歳児クラス(29名)は、同園内で合宿保育を行いました(9月3日~4日)。頭にバンダナを巻いて海賊に扮した子どもたちは宝の地図を手に園内を探検、与えられたミッションをクリアしていくと「先生ー、楽しい!」の歓声があがります。最後に西島美奈子園長扮する海賊船長にプレゼントをもらって大喜び。保育スタッフも「盛り上がったね!」と達成感に浸ることしきり。夜はホールで電球を使ったキャンプファイヤー(写真)。子どもたちは火の神様、妖精などに扮した保育スタッフとゲームに興じました。保護者と離れ子どもたちだけで過ごした合宿保育、一回り大きく成長したかな。



浴衣姿で手振りも軽やかに

ベトナム人スタッフ6名参加
岩戸ホーム(福知山市)のベトナム人スタッフ(特定技能・技能実習生)6名は、400年以上の歴史がある地元の「福知山踊り」を楽しむ「福知山ドッコイセまつり」に初参加しました(8月15日)。スタッフのみなさんは浴衣を羽織つて樽(ヤケラ)を囲む踊りの輪に入り手振りも軽やかに踊り、賑わう多くの屋台で買い物を楽しんだり、練り歩くなど日本の夏祭りを満喫していました。この日のあまりの暑さに、浴衣から私服に着替えるメンバーもあり、「また行きたい」と楽しい思い出になったようです。



ベトナム風冷やしぜんざいに舌鼓

ドッコイセイの合いの手も加わり盛り上がる
サンヒルズ紫豊館で夏祭りが同施設内の食堂で行われました(8月20日)。福知山淑徳高校(調理系列)の生徒のみなさんが調理した焼きそばやベトナム人技能実習生監修の「チエー(ベトナム風冷やしぜんざい)」がふるまわれ、ご利用者は普段と違った食事を楽しまれました。お楽しみ抽選会や福知山音頭の踊りの映像が流される演出に、ご入居者の「ドッコイセイ」の合いの手も加わり、雰囲気盛り上げました。花火の打ち上げは、降雨のため延期となりましたが、日をあらため実施(8月28日)、ご入居者や地域の方から「久しぶりに花火が見られてよかった」と喜びの声が届きました。



冷たーい“湖水浴”に貝殻拾い

認定こども園きりん愛育園の5歳児クラス(37名)は9月12日、成光苑の福利厚生施設「愛ランド」(大津市)へ貸し切りの大型バスで遠足に出かけました。コロナの影響が残るため“お泊り保育の代替”として実施した思い出づくり。愛ランドに到着後、歩いて約10分の琵琶湖で“湖水浴”。普段のプールとは違ったようで「冷たーい!」。小さな貝殻をたくさん拾うなど浜辺探索も楽しみました。愛ランドに戻ってからはお弁当とスイカ割り。「がんばれー!」の声援に子どもたちは大奮闘でした。



「愛ランド」で夏の思い出づくり

いつまでも お元気で 施設長から記念のブランケット贈呈 開設後初の敬老式典

ライフ・ステージ 夢咲の地域交流室(1F)で開設後初の敬老式典が行われ14名のご入居者が出席、西脇隆俊京都府知事、多々見良三舞鶴市長からビデオメッセージでお祝いの言葉が寄せられました(9月21日)。式典では山本幸一郎施設長(写真右)が手渡しでブランケットを贈呈、白寿(99歳)・米寿(88歳)をお迎えになられた方を含む皆様への敬愛と長寿をお祝いしました。

そのあと各ユニットで祝御膳とケーキで会食、障がい生活介護ご利用者とスタッフのアクション「スコップ三味線」を披露、手拍子や笑いに包まれました。コロナの影響でご家族や地域の方の招待はできず、代わりに動画をご家族にお渡しする予定です。

人生を振り返りお祝いに涙 家族から手紙や思い出の動画も届けられ

サンヒルズ紫豊館の敬老式典・祝賀会がコロナ禍の影響からご来賓・ご家族の招待を控え行われました(9月26日)。

式典では、入居(令和2年6月)以来初めて長寿(傘寿)のお祝いを迎えられたご入居者は挨拶で、これまでの人生を振り返りつつ感極まって涙される場面も。病気の後遺症にもめげず懸命に言葉を述べられる姿にスタッフも感動しました。祝賀会では、節目の長寿歳を迎えられたご入居者のご家族から手紙(写真)や動画が届けられ、ご家族との思い出の映像に大喜びの光景もみられました。

「お祝いされたらもっと長生きするね」 ユーモアたっぷりのお礼の言葉も

ライフ・ステージ 舞夢とグループ・ホーム 舞夢(同一敷地内)で敬老式典・祝賀会が行われました(9月8日)。55名のご入居者が参加、お二人が米寿(88歳)、お一人が百寿(100歳)、最高齢の方は103歳を元気に迎えられました。

コロナ禍の影響を考慮し、各ユニット単位での式典・祝賀会、上野由香子施設長、大垣智義事業課長から祝辞、賞状、記念品が贈呈されました。ご入居者は「ありがとう。お祝いされたらもっと長生きするね」とユーモアたっぷりに喜ばれていました。祝賀会ではスタッフと一緒に食事を楽しまれ、アットホームな雰囲気に包まれたお祝いができました。

元気な姿を映像で伝え“世代間交流”

認定こども園きりん愛育園は9月13日、5歳児クラスの子どもの映像を近隣の高齢者の集まりの場「喫茶みなみ山田」(長野町公民館)で上映しました。

コロナの影響で地域の高齢者のみなさんと直接の世代間交流が困難なため、保育スタッフが出向いて参加し、子どもたちの元気な姿をスクリーンで披露。「おじいちゃん・おばあちゃん」の歌では「いつまでもお元気でいてください」とメッセージを添え、園児手作りのマグネットを保育スタッフからプレゼント。参加されているみなさんからは「言葉をたくさん話せてすごいね」と、映像をご覧になりながら拍手される光景が印象的でした。



高齢者の集まり喫茶で

3年ぶりに「由良ゆら夕涼み会」 民謡に合わせ踊り大賑わい

ライフ・ステージ 舞夢は「由良ゆら夕涼み会(夏祭り)」を3年ぶりに開催しました(7月23日)。昨年は「花火大会」のみの実施となりましたが、今年はコロナ対策を徹底し、飲食コーナーやレクリエーションコーナーなど模擬店も多数設置しました。スタッフが各コーナーで盛り上げ、ご入居者は会場内の民謡や盆踊りの曲に合わせて拍手や踊りをされるなど大賑わい。もちろんメインイベントは「花火大会」。施設の眼下に流れる由良川の河川敷からの打ち上げ花火に、地域の方がそれぞれの特等席から観覧され遠くから歓声が聞こえてきました。

